



2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月12日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス
 コード番号 8214 URL <https://www.aoki-hd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田村 春生
 問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 江口 聡
 定時株主総会開催予定日 2026年6月25日 配当支払開始予定日 2026年6月8日
 有価証券報告書提出予定日 2026年6月22日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

上場取引所 東
 (TEL) 045-941-1388
 2026年6月8日

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期の連結業績 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期	194,532	1.0	16,947	8.3	16,370	10.7	9,461	△1.2
2025年3月期	192,688	2.6	15,646	12.9	14,782	11.7	9,574	26.4

(注) 包括利益 2026年3月期 9,692百万円(3.6%) 2025年3月期 9,351百万円(20.6%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2026年3月期	112.45	—	6.6	7.1	8.7
2025年3月期	113.89	—	6.9	6.3	8.1

(参考) 持分法投資損益 2026年3月期 一百万円 2025年3月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期	225,455	145,208	64.3	1,721.79
2025年3月期	232,976	142,140	60.9	1,686.64

(参考) 自己資本 2026年3月期 144,902百万円 2025年3月期 141,842百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年3月期	17,635	△10,562	△14,945	27,008
2025年3月期	21,736	△8,519	△13,992	34,880

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2025年3月期	—	15.00	—	60.00	75.00	6,307	65.9	4.5
2026年3月期	—	20.00	—	60.00	80.00	6,732	71.1	4.7
2027年3月期(予想)	—	30.00	—	60.00	90.00		75.7	

3. 2027年3月期の連結業績予想 (2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	200,000	2.8	18,000	6.2	17,500	6.9	10,000	5.7	118.82

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2026年3月期	86,649,504株	2025年3月期	86,649,504株
----------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2026年3月期	2,491,481株	2025年3月期	2,551,777株
----------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数

2026年3月期	84,135,656株	2025年3月期	84,068,804株
----------	-------------	----------	-------------

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料4ページ「1. 経営成績の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

（決算補足説明資料について）

・決算補足説明資料については、2026年5月12日（火）にTDnetに開示するとともに当社ホームページに掲載しております。

（決算説明会資料について）

・当社は、2026年5月22日（金）に機関投資家・アナリスト向け決算説明会（WEB説明会）を開催する予定です。この決算説明会資料等については、開催前日の午後に当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

	頁
1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
連結損益計算書	7
連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(重要な会計上の見積り)	12
(セグメント情報等)	14
(1株当たり情報)	16
(重要な後発事象)	16
4. その他	16
役員の異動	16

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、中東情勢の緊迫化に伴う不確実性の高まりや米国の通商政策の影響、また、継続する物価上昇による消費者の節約志向が依然として根強いなど、先行きは不透明な状況が続いております。このような環境のなかで、当社グループは各事業において市場環境やライフスタイルの変化に対応し下記のような諸施策を実施した結果、当連結会計年度の業績は、

売上高	1,945億32百万円(前年同期比1.0%増)
営業利益	169億47百万円(前年同期比8.3%増)
経常利益	163億70百万円(前年同期比10.7%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	94億61百万円(前年同期比1.2%減)

となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

(ファッション事業)

ファッション事業では、新生活を迎えるフレッシュャーズの皆様に向けて、キャンペーンキャラクターとしてメンズ・レディース双方から高い支持を得ているなわ男子を起用するとともに、新たに女優の畑芽育さんを迎え「フレッシュャーズ応援フェア」を開催いたしました。また、AOKIの高機能レディースウェア・ブランド「MeWORK(ミワーク)」では、働く女性に向けた人気雑誌のOggiとコラボレーションすることで、トレンドと機能性を両立させた「神ラクセットアップ」をはじめとする多数のアイテムの開発と提案を強化いたしました。ORIHICAでは、計画的な新規出店及び主要店舗の改装によるマーケットシェア拡大と認知度向上を進めるとともに、メンズで好評のビジカジ商品をレディース向けに展開するなど、商品の拡充を図りました。店舗面では、AOKIで2店舗及びORIHICAで20店舗を新規出店した一方、営業効率改善のためAOKIで6店舗及びORIHICAで8店舗を閉鎖した結果、期末店舗数は611店舗(前期末603店舗)となりました。

これらの諸施策の実施及び新規出店が寄与した一方、仕入原価の上昇や出店費用等コストが増加した結果、売上高は1,028億94百万円(前年同期比0.3%増)、営業利益は85億8百万円(前年同期比2.1%減)となりました。

(エンターテイメント事業)

複合カフェの快活CLUBでは、引き続き鍵付完全個室店舗の拡大を推し進めるとともに、快活オリジナルメニューの開発等の飲食強化及びダーツやカラオケなどのコンテンツの充実により、客単価の向上と集客の強化を図りました。カラオケのコート・ダジュールでは、高級アイスブランドとタイアップした「ICHIGO FAIR(苺フェア)」を開催するなど飲食メニューを強化するとともに、歓送迎会シーズンに合わせたパーティーコースの販売等により幅広い客層の集客に注力いたしました。24時間営業のフィットネスジムのFIT24では、月会費がお得な春の入会キャンペーンの開催等により新規会員の獲得に注力するとともに、トレーニングサポート「スタサポ」の強化や新規マシンの導入等により、初心者から上級者までご満足いただける快適なトレーニング環境の構築に努めました。店舗面では、快活CLUBで26店舗、コート・ダジュールで2店舗及びFIT24で5店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため快活CLUBで14店舗、コート・ダジュールで4店舗及びFIT24で9店舗を閉鎖した結果、ランシシステムの複合カフェ自遊空間他81店舗(内フランチャイズ46店舗)を含め、期末店舗数は773店舗(前期末768店舗)となりました。

これらの諸施策の実施等により既存店が堅調に推移した結果、売上高は767億83百万円(前年同期比1.0%増)、営業利益は72億67百万円(前年同期比21.3%増)と増収増益になりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

アニヴェルセル・ブライダル事業では、受注活動の強化を継続するとともに、市場環境の変化に応じた価格の適正化及び接客スキルの向上による組単価アップに注力いたしました。また、新たに発表したウェディングコンセプトのもと、時代の変化や多様化する価値観など現代のニーズにお応えした結婚式をご提案することで、アニヴェルセルブランドの差別化を図りました。あわせて、アニヴェルセルカフェみなとみらい横浜店において、有名ジュエリーブランドとのコラボレーションフェア「SAKURA Sweets Collection」を開催し、期間限定のデザートやドリンクメニューを提供いたしました。

これらの諸施策の実施等により基幹店である表参道店及びみなとみらい横浜店を中心に施行組数の増加と組単価が上昇した結果、売上高は124億48百万円(前年同期比6.3%増)、営業利益は8億74百万円(前年同期比61.3%増)と増収増益になりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業では、グループ内店舗の遊休スペースの賃貸を進めた一方、一部の店舗で原価が増加したこと等により、売上高は71億95百万円(前年同期比4.6%増)、営業利益は15億44百万円(前年同期比2.7%減)となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ75億20百万円減少し、2,254億55百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が78億71百万円及び信託受益権等のその他が13億41百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ89億54百万円減少いたしました。固定資産は、繰延税金資産が13億13百万円減少した一方、有形固定資産が新規出店等により11億54百万円、無形固定資産が7億18百万円及び退職給付に係る資産が8億74百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ14億34百万円増加いたしました。

(負債)

流動負債は、短期借入金が10億円増加した一方、買掛金が支払条件の変更等により31億6百万円、賞与引当金が14億1百万円及び未払金が5億98百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ46億18百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が67億24百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ59億69百万円減少いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する当期純利益及び配当金の支払いの結果27億32百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ30億67百万円増加しております。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

キャッシュ・フローの状況

	前連結会計年度	当連結会計年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,736百万円	17,635百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,519	△10,562
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,992	△14,945
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△776	△7,871
現金及び現金同等物の期首残高	35,657	34,880
現金及び現金同等物の期末残高	34,880	27,008

当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、税金等調整前当期純利益が増加した一方、有形固定資産の取得、仕入債務の減少額及び配当金の支払いが増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ78億71百万円減少し、270億8百万円となりました。

営業活動により得られた資金は、176億35百万円(前年同期と比べ41億円減少)となりました。これは主に、法人税等の支払額が40億23百万円及び仕入債務の減少額が31億6百万円となった一方、税金等調整前当期純利益が149億75百万円及び減価償却費が101億98百万円となったことによるものです。

投資活動により使用した資金は、105億62百万円(前年同期と比べ20億42百万円増加)となりました。これは主に、設備投資のための有形固定資産を109億80百万円取得したことによるものです。

財務活動により使用した資金は、149億45百万円(前年同期と比べ9億52百万円増加)となりました。これは主に、短期借入れを10億円及び長期借入れを50億円実施した一方、長期借入金の返済120億24百万円、リース債務の返済21億99百万円及び配当金の支払い67億20百万円実施したことによるものです。

(4) 今後の見通し

今後の見通しにつきましては、継続的なエネルギーコストや原材料価格の高騰による物価上昇、中東情勢緊迫化の長期化懸念や米国の通商政策の動向の影響等、依然として先行きは不透明な状況が続くものと思われまます。このような環境のなかで、引き続き市場環境やライフスタイルの変化に対応した商品及びサービスの提供を行い、それぞれの事業において新たな価値の創造を継続するとともに、各事業間におけるシナジーを高めグループとしての企業価値の向上を図ってまいります。

ファッション事業では、LIFE & WORK STYLE（ライフ&ワークスタイル）のAOKI・ORIHICAとして、多様化するお客様ニーズや消費環境の変化に即した商品戦略を推進し、中長期的にはカジュアルとレディースの売上構成を引き上げるとともに、効率的な店舗形態への転換・刷新により収益力の向上を図ってまいります。新規出店は、AOKIとORIHICAあわせて14店舗を予定しております。

エンターテイメント事業は、引き続き鍵付完全個室店舗の拡大を進めるとともに、様々なコンテンツや新サービスの導入と各種キャンペーンの実施によりお客様層の拡大に注力してまいります。また、省人化による店舗オペレーションの効率化等により収益力の向上を図ってまいります。新規出店は、快活CLUB及びFiT24あわせて30店舗を予定しております。

アニヴェルセル・ブライダル事業は、基幹店である表参道店とみなとみらい横浜店を中心に自主販促の拡大による婚礼受注活動の更なる強化と、企業の展示会やパーティーなど法人宴会需要の取り込みを推進するとともに、店舗オペレーションの標準化・効率化を図り収益力の向上と営業効率の改善に努めてまいります。

セグメント別の業績は、以下のとおり予想しております。

【2027年3月期のセグメント別予想】

(単位：百万円)

	ファッション事業	エンターテイメント事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	不動産賃貸事業	連結
売上高	106,500	77,700	13,000	7,400	200,000
前年同期比(%)	103.5	101.2	104.4	102.8	102.8
セグメント利益	8,900	7,875	1,000	1,700	18,000
前年同期比(%)	104.6	108.4	114.4	110.1	106.2

(注) セグメント利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメントの合計と連結との差異はその他事業及び連結上の調整額です。

なお、各事業の既存店増収率の前提は以下のとおりです。

(単位：%)

	第1四半期	第2四半期	上半期	第3四半期	第4四半期	下半期	通期
ファッション事業	2.3	2.5	2.4	4.4	2.2	3.0	2.8
エンターテイメント事業	0.6	0.6	0.6	1.7	△0.3	0.7	0.6

(注) 1. アニヴェルセル・ブライダル事業は、既存店の施行組数は前年同期比0.7%増を見込んでおります。

2. エンターテイメント事業にはランシステムは含まれておりません。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループの事業は、すべて国内で展開しており、また、海外からの資金調達必要性が乏しく、海外投資家の割合も大きくないこと等から、会計基準は日本基準を適用しております。

なお、今後につきましては、当社グループの事業展開や他社の動向等を踏まえて、IFRS（国際財務報告基準）の適用について適切に対応していく方針です。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,880	27,008
売掛金	14,855	14,479
棚卸資産	22,737	23,370
その他	7,357	6,015
貸倒引当金	△11	△10
流動資産合計	79,819	70,865
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	149,701	153,573
減価償却累計額	△83,940	△87,015
建物及び構築物(純額)	65,760	66,557
機械、運搬具及び工具器具備品	26,849	28,339
減価償却累計額	△15,595	△17,194
機械、運搬具及び工具器具備品(純額)	11,253	11,145
土地	30,397	30,692
リース資産	14,429	15,446
減価償却累計額	△9,913	△10,809
リース資産(純額)	4,516	4,636
建設仮勘定	182	232
有形固定資産合計	112,110	113,264
無形固定資産	6,403	7,121
投資その他の資産		
投資有価証券	760	541
差入保証金	6,233	6,203
敷金	19,025	19,152
退職給付に係る資産	143	1,018
繰延税金資産	7,119	5,805
その他	1,383	1,496
貸倒引当金	△24	△14
投資その他の資産合計	34,642	34,204
固定資産合計	153,156	154,590
資産合計	232,976	225,455

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,023	14,916
短期借入金	—	1,000
1年内返済予定の長期借入金	10,305	10,005
リース債務	1,808	1,541
未払金	7,737	7,139
未払法人税等	2,190	2,558
契約負債	2,174	2,155
賞与引当金	3,398	1,997
役員賞与引当金	193	152
その他	4,794	4,541
流動負債合計	50,627	46,009
固定負債		
長期借入金	25,684	18,960
リース債務	2,865	3,452
退職給付に係る負債	62	66
資産除去債務	8,818	8,897
その他	2,776	2,861
固定負債合計	40,207	34,238
負債合計	90,835	80,247
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	22,612	22,644
利益剰余金	98,017	100,749
自己株式	△2,960	△2,887
株主資本合計	140,952	143,789
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	151	7
退職給付に係る調整累計額	737	1,105
その他の包括利益累計額合計	889	1,112
非支配株主持分	298	306
純資産合計	142,140	145,208
負債純資産合計	232,976	225,455

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
売上高	192,688	194,532
売上原価	111,998	111,651
売上総利益	80,690	82,881
販売費及び一般管理費	65,043	65,933
営業利益	15,646	16,947
営業外収益		
受取利息	89	128
受取配当金	20	15
その他	160	92
営業外収益合計	271	235
営業外費用		
支払利息	255	257
固定資産除却損	156	227
店舗閉鎖損失	141	93
その他	582	234
営業外費用合計	1,135	813
経常利益	14,782	16,370
特別利益		
固定資産売却益	184	20
投資有価証券売却益	563	167
収用補償金	157	—
受取補償金	—	131
特別利益合計	905	318
特別損失		
固定資産売却損	20	—
減損損失	1,620	1,713
投資有価証券評価損	103	—
特別損失合計	1,743	1,713
税金等調整前当期純利益	13,943	14,975
法人税、住民税及び事業税	3,826	4,364
法人税等調整額	543	1,141
法人税等合計	4,370	5,506
当期純利益	9,573	9,469
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失	△0	8
親会社株主に帰属する当期純利益	9,574	9,461

連結包括利益計算書

	(単位：百万円)	
	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
当期純利益	9,573	9,469
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△590	△144
退職給付に係る調整額	367	367
その他の包括利益合計	△222	223
包括利益	9,351	9,692
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	9,352	9,684
非支配株主に係る包括利益	△0	8

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	23,282	22,597	92,813	△3,047	135,645
当期変動額					
剰余金の配当			△4,370		△4,370
親会社株主に帰属する当期純利益			9,574		9,574
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		15		88	103
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	15	5,204	87	5,307
当期末残高	23,282	22,612	98,017	△2,960	140,952

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	741	369	1,111	299	137,056
当期変動額					
剰余金の配当					△4,370
親会社株主に帰属する当期純利益					9,574
自己株式の取得					△0
自己株式の処分					103
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△590	367	△222	△0	△222
当期変動額合計	△590	367	△222	△0	5,084
当期末残高	151	737	889	298	142,140

当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	23,282	22,612	98,017	△2,960	140,952
当期変動額					
剰余金の配当			△6,729		△6,729
親会社株主に帰属する当期純利益			9,461		9,461
自己株式の取得				△1	△1
自己株式の処分		31		73	105
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	31	2,732	72	2,836
当期末残高	23,282	22,644	100,749	△2,887	143,789

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	151	737	889	298	142,140
当期変動額					
剰余金の配当					△6,729
親会社株主に帰属する当期純利益					9,461
自己株式の取得					△1
自己株式の処分					105
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△144	367	223	8	231
当期変動額合計	△144	367	223	8	3,067
当期末残高	7	1,105	1,112	306	145,208

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	13,943	14,975
減価償却費	9,920	10,198
減損損失	1,620	1,713
のれん償却額	81	1
退職給付に係る資産負債の増減額	△174	△331
賞与引当金の増減額(△は減少)	△391	△1,401
受取利息及び受取配当金	△110	△143
支払利息	255	257
固定資産売却益	△185	△20
固定資産売却損	20	—
投資有価証券売却損益(△は益)	△563	△167
投資有価証券評価損益(△は益)	103	—
売上債権の増減額(△は増加)	586	375
棚卸資産の増減額(△は増加)	△490	△632
仕入債務の増減額(△は減少)	△689	△3,106
契約負債の増減額(△は減少)	298	△18
未払消費税等の増減額(△は減少)	396	△668
その他	522	731
小計	25,143	21,763
利息及び配当金の受取額	95	128
利息の支払額	△263	△259
法人税等の支払額	△3,737	△4,023
法人税等の還付額	498	26
営業活動によるキャッシュ・フロー	21,736	17,635
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△9,973	△10,980
有形固定資産の売却による収入	1,566	1,270
無形固定資産の取得による支出	△752	△1,351
敷金及び保証金の差入による支出	△862	△977
敷金及び保証金の回収による収入	852	489
投資有価証券の売却による収入	1,304	219
信託受益権の純増減額(△は増加)	56	1,646
その他	△711	△880
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,519	△10,562
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	1,000
長期借入れによる収入	3,000	5,000
長期借入金の返済による支出	△9,539	△12,024
リース債務の返済による支出	△2,588	△2,199
自己株式の取得による支出	△0	△1
配当金の支払額	△4,363	△6,720
その他	△500	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,992	△14,945
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△776	△7,871
現金及び現金同等物の期首残高	35,657	34,880
現金及び現金同等物の期末残高	34,880	27,008

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(重要な会計上の見積り)

1. 店舗固定資産の減損

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度			当連結会計年度		
	ファッション事業	エンターテイメント事業	アニヴェルセル・プライダル事業	ファッション事業	エンターテイメント事業	アニヴェルセル・プライダル事業
セグメント別固定資産の期末帳簿価額(減損損失計上後)※	45,146	57,304	13,784	46,512	57,815	13,475
減損損失	360	1,229	—	510	1,198	—

※ 店舗固定資産及び共用資産等を含みます。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

① 見積りの算出方法

減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定は、各店舗の翌連結会計年度予算及び将来キャッシュ・フローの見積りを使用しております。

資金生成単位は、各店舗を独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位としており、各店舗の営業損益が過去2か年連続してマイナスとなった場合、当年度がマイナスであり翌年度予算も継続してマイナスである場合及び店舗の固定資産の時価が著しく下落した場合、あるいは店舗閉鎖の意思決定をした場合等に減損の兆候を把握しております。減損の兆候が把握された店舗については、将来キャッシュ・フローを見積り、割引前将来キャッシュ・フローの合計が当該店舗の固定資産の帳簿価額を下回る場合には、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。回収可能価額は正味売却価額と使用価値のいずれか高い金額によっております。

② 主要な仮定

将来キャッシュ・フローの見積りは、適切な権限を有する経営者の承認を得た事業計画に基づく各店舗の将来の収益予測及び営業利益予測に基づいております。割引前将来キャッシュ・フローの合計及び使用価値の算定にあたっては、各店舗の営業継続期間の予測を20年又は契約更新が出来ない店舗は契約期間、あるいは退店予定までの期間としております。

(ファッション事業)

ファッション事業は、開店初年度は初期費用がかかり通常営業損失になるため、減損の兆候を把握する対象から除外しております。また、ビジネススタイルの多様化等の影響によりビジネスモデルの進化が必要であると認識しており、ビジカジを含めたカジュアル衣料やレディースの強化を進めております。将来の収益予測を見積るにあたり、翌連結会計年度以降の既存店売上高合計は、当連結会計年度と比べ、102%から103%で推移するとの仮定を置いております。

(エンターテイメント事業)

エンターテイメント事業の顧客の数は認知度の向上とともに初年度から3年程度増加する傾向があり、開店初年度は初期費用がかかり通常営業損失になるため、減損の兆候を把握する店舗から除外しております。将来の収益予測を見積るにあたり、翌連結会計年度以降の既存店売上高合計(株式会社ランシステム及びその子会社除く)は、当連結会計年度と比べ、98%から100%(複合カフェで99%から100%、カラオケで99%から100%、フィットネスで99%から103%)で推移するとの仮定を置いております。

(アニヴェルセル・プライダル事業)

アニヴェルセル・プライダル事業は、少子化の進行やウェディングスタイルの変化により婚姻組数は減少傾向にありますが、自分たちらしい結婚式を求めると価値観の多様化が進んでおります。将来の収益予測を見積るにあたり、翌連結会計年度以降の既存店の施行組数は当連結会計年度と比べそれぞれ99%から103%との仮定を置いております。

(3) 翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

市場環境の変化等により翌連結会計年度以降の収益予測及び営業利益予測の仮定が大きく異なった場合には、翌連結会計年度の減損損失に影響を与える可能性があります。

当連結会計年度が開店初年度であるため、また、減損損失の兆候を把握したが将来の収益予測及び営業利益予測により、減損損失を計上しなかった店舗の固定資産の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度			当連結会計年度		
	ファッション事業	エンターテイメント事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	ファッション事業	エンターテイメント事業	アニヴェルセル・ブライダル事業
開店初年度であるため減損の兆候から除外した店舗の固定資産帳簿価額	649	1,590	—	966	2,998	—
減損の兆候を把握したが減損損失を計上しなかった店舗の固定資産帳簿価額	2,432	※1 9,117	1,518	2,642	※2 5,586	1,345

※1. うち、複合カフェ6,701百万円、カラオケ606百万円、フィットネス1,809百万円

2. うち、複合カフェ3,965百万円、カラオケ685百万円、フィットネス935百万円

2. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
繰延税金資産	7,119	5,805

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

① 算出方法

当社及び連結子会社ごとに、将来加算一時差異の解消スケジュール、収益力に基づく将来の課税所得及びタックス・プランニング等に基づいて、将来の税負担を軽減する効果を有する範囲内で繰延税金資産を計上しております。将来の収益力に基づく当社及び連結子会社の課税所得見込みは、適切な権限を有する経営者の承認を得た事業計画に基づいております。

② 主要な仮定

当社及び各連結子会社が策定した事業計画には将来の需要動向や売上予測等の見積りが含まれております。連結子会社における事業の主要な仮定の内容は、「1. 店舗固定資産の減損」に記載しております。なお、連結子会社の事業計画には、翌期以降の出店計画に伴う収益の見込みが含まれております。

③ 翌連結会計年度の財務諸表に与える影響

市場環境の変化等により翌連結会計年度以降の収益予測及び営業利益予測の仮定が大きく異なった場合には、翌連結会計年度の繰延税金資産及び法人税等調整額の増減に影響を与える可能性があります。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社グループは、当社が純粋持株会社として各社の事業をサポートするとともに、当社及び各事業会社は取り扱い商品・サービスについて国内の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社及び各事業会社は取り扱い商品・サービス別セグメントから構成されており、「ファッション事業」、「エンターテインメント事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」及び「不動産賃貸事業」の4つを報告セグメントとしております。

「ファッション事業」は、メンズ及びレディース衣料の企画販売、「エンターテインメント事業」は、時代のニーズに合わせた様々な“こと”を楽しむ空間とサービスを提供する快活CLUB・自遊空間及びフィットネスジム並びにカラオケルーム等の展開、「アニヴェルセル・ブライダル事業」は、結婚式場の運営、「不動産賃貸事業」は、各事業の閉店後の店舗等を当社グループ内外に賃貸する等の事業を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用している会計処理の方法と概ね同一です。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値です。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報
前連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	ファッ ション 事業	エンター テイン メント 事業	アニヴェ ルセル・ ブライ ダル事 業	不動産 賃 貸事 業	計				
売上高									
ファッション	102,620	—	—	—	102,620	—	102,620	—	102,620
複合カフェ	—	60,064	—	—	60,064	—	60,064	—	60,064
カラオケ	—	10,212	—	—	10,212	—	10,212	—	10,212
フィットネス	—	5,097	—	—	5,097	—	5,097	—	5,097
ブライダル	—	—	11,705	—	11,705	—	11,705	—	11,705
その他	—	566	—	—	566	201	767	—	767
顧客との契約から 生じる収益	102,620	75,940	11,705	—	190,266	201	190,468	—	190,468
その他の収益	—	85	—	2,135	2,220	—	2,220	—	2,220
外部顧客への売上高	102,620	76,025	11,705	2,135	192,486	201	192,688	—	192,688
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	15	7	4,741	4,765	64	4,829	△4,829	—
計	102,621	76,040	11,713	6,877	197,252	266	197,518	△4,829	192,688
セグメント利益 又は損失(△)	8,690	5,991	541	1,587	16,811	△2	16,808	△1,161	15,646
セグメント資産	102,523	66,818	15,646	25,693	210,680	—	210,680	22,295	232,976
その他の項目									
減価償却費	2,050	6,371	784	204	9,411	—	9,411	476	9,888
のれん償却額	—	81	—	—	81	—	81	—	81
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	3,974	8,231	848	164	13,219	—	13,219	237	13,456

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業等です。

2. 調整額は以下のとおりです。

(1) セグメント利益又は損失の調整額△1,161百万円には、セグメント間取引消去3,696百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,858百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

(2) セグメント資産の調整額22,295百万円には、子会社に対する債権の相殺消去△43,451百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産65,746百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の土地、本社建物及び構築物です。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額237百万円は、主に全社のシステム関連投資です。

3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 報告セグメントごとの売上高、利益、資産、その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報
当連結会計年度(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	ファッ ション事業	エンター テイメント 事業	アニヴェ ルセル・ブ ライダル事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
ファッション	102,892	—	—	—	102,892	—	102,892	—	102,892
複合カフェ	—	61,281	—	—	61,281	—	61,281	—	61,281
カラオケ	—	9,471	—	—	9,471	—	9,471	—	9,471
フィットネス	—	5,597	—	—	5,597	—	5,597	—	5,597
ブライダル	—	—	12,436	—	12,436	—	12,436	—	12,436
その他	—	327	—	—	327	239	567	—	567
顧客との契約から 生じる収益	102,892	76,677	12,436	—	192,006	239	192,246	—	192,246
その他の収益	—	84	—	2,202	2,286	—	2,286	—	2,286
外部顧客への売上高	102,892	76,762	12,436	2,202	194,292	239	194,532	—	194,532
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	21	12	4,993	5,028	59	5,088	△5,088	—
計	102,894	76,783	12,448	7,195	199,321	298	199,620	△5,088	194,532
セグメント利益	8,508	7,267	874	1,544	18,194	16	18,210	△1,262	16,947
セグメント資産	96,593	67,896	15,062	26,638	206,190	—	206,190	19,264	225,455
その他の項目									
減価償却費	2,205	6,479	806	221	9,713	—	9,713	455	10,169
のれん償却額	—	1	—	—	1	—	1	—	1
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	4,696	8,647	479	403	14,226	—	14,226	313	14,540

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業等です。

2. 調整額は以下のとおりです。

- (1) セグメント利益の調整額△1,262百万円には、セグメント間取引消去3,319百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,582百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。
- (2) セグメント資産の調整額19,264百万円には、子会社に対する債権の相殺消去△39,203百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産58,468百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の土地、本社建物及び構築物です。
- (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額313百万円は、主に全社のシステム関連投資です。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり純資産額	1,686.64円	1,721.79円
1株当たり当期純利益	113.89円	112.45円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	当連結会計年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	9,574	9,461
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	9,574	9,461
普通株式の期中平均株式数(千株)	84,068	84,135
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概 要	—	—

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当連結会計年度 (2026年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	142,140	145,208
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	298	306
(うち非支配株主持分(百万円))	(298)	(306)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	141,842	144,902
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株 式の数(千株)	84,097	84,158

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. その他

役員の変動

新任取締役候補(2026年6月25日付予定)

取締役 上田 雄久(現 グループ事業戦略室長)